

IEC活動推進会議議長就任にあたって



三菱電機株式会社 藪 重洋

6月4日に開催されました第29回 IEC 活動推進会議 (IEC-APC) 総会で、ご指名・ご承認を頂き、2019年度の IEC-APC 議長に就任致しました藪 重洋でございます。この1年間、議長として皆様と共に IEC 標準化推進活動に参画させていただけることを誠に光栄に思っております。

私自身は、これまで IEC 活動への直接の関わりはなかったのですが、今年3月まで7年にわたる海外勤務の中で、グローバルなビジネスにおける国際標準化の重要性を強く認識してまいりました。特に米国においては、Amazon Alexa、Google Home に当社のエアコンのコントロールをクラウド間通信技術によって接続する開発にかかわった事で、もう少し標準化された環境があればその開発効率も上げられるのではないかと感じました。

近年、IoT や AI などの新しい技術が様々な産業分野に浸透し始め、いろいろなモノがつながり、そこでやり取りされるデータによって新たな価値が生み出されるという従来とは異なる仕組みが生まれてきております。私自身が、Uber や Lyft のヘビーユーザーとしてその利便性を実感し、米国では最も人気のあるユーザー参加型のナビソフト Waze の効用を知ることができ、加えてテスラ、モデル 3 に同乗させてもらいオートパイロット機能を体験したことで、この大きな変化を強烈に認識しております。これらの変化は、間違いなく、モノやデータ、サービスが国境を越えて広く流通することを後押しします。このような状況に対応するために、個々の製品だけでなく、データやサービス分野、社会システム分野を含めた国際標準化がますます重要になっていると考えます。

日本でも、7月1日に改正 JIS 法が施行され、従来の製品の性能や評価方法に対する標準化に加え、データやサービス等が標準化対象に追加されました。また、来年には、高速性、同時多接続性、低遅延性の面で性能が大幅に向上する次世代移動通信方式 5G の本格的サービスが開始予定です。5G は IoT 等の通信にも使用され、自動運転やスマートファクトリー、スマートシティなどの様々なシステムの中に取り込まれることが想定されています。この状況のもと、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成、および、持続可能で誰にでも開かれた「Society 5.0」の実現に向け、これらのシステムを組合せた未来社会の在り方の検討も進むと予想されます。課題先進国と言われる日本から、このような複雑なシステム全体を見据えたうえで、個々の機器からシステムまで、安全性やセキュリティも含めた幅広い国際標準を提案してゆくことにより、日本の国際競争力向上につながるだけでなく、より良い世界を実現するための国際的な仕組みづくりに貢献できると期待されます。

IEC-APC では、IEC の上層委員会等への対応支援を通して IEC の国際標準化活動における日本の立場向上を図るとともに、セミナーや研修会を通じた人材育成・啓発活動等により今後の国際標準化活動を担う若手の育成を進め、日本の産業界に貢献できるよう努めてまいります。引き続き、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

以上